

氏名	渡 敦 夫
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 3 0 3 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和43年 9 月30日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学 位 論 文 題 目	体内粉じんを主としたじん肺症に関する研究 第1編 リンパ腺の検索 —Scalene node biopsyを中心に— 第2編 痰の検索 —偏光顕微鏡観察の可否について— 第3編 肺の検索 —三石地区じん肺を中心に—
論 文 審 査 委 員	教授 平 木 潔 教授 小 坂 淳 夫 教授 大 藤 真

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

じん肺症に関し、主として体内粉塵の臨床的意義をみるため、じん肺患者、非じん肺患者の scalena node, 痰, 肺を用いて鉱物学的, 病理組織学的検索を行い、以下の結果を得た。

第1編 リンパ腺: scalene node 中にも石英が存し、粉塵の大きさは殆んど 1μ であり、粉塵量、組織変化は肺内の変化とほぼ平行関係にある。

第2編 痰: 偏光顕微鏡による無処理痰の観察では石英の検出は困難である。けい肺患者では離職後半年以上を経過しても、無水けい酸量の多少にかかわらず多量の石英を喀出している者もある。

第3編 肺: 三石地区じん肺患者は蠟石肺の性格を加味したけい肺症である。

結 論 じん肺症の補助診断法として scalene node biopsy は有力な価値を示すが、痰の検索からは補助診断としての価値は見出し得なかった。

不明じん肺の一つであった三石地区じん肺症は蠟石肺の性格を加味したけい肺症であることを解明した。

昭和40年4月1日発行、日本災害医学会会誌第13巻第2号に掲載

論文審査の結果の要旨

本研究は塵肺症に関し、主として体内粉塵の臨床的意義をみるため塵肺患者、非塵肺患者の scalenenode 肺を用いて鉱物学的、病理組織学的検索を行ったものであるが、塵肺症の補助診断法として scaleneno-de biopsy は有力な価値を示すこと、更に従来不明塵肺の一つであった三石地区塵肺症の解明等重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。よって本研究者は医学博士の学位を得る資格があることを認める。